

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO 団体などを紹介します。

問 地域振興課 ☎82・3910/IP ☎88・9094

1 伊那佐『灯』Mateを

八咫鳥神社で実施
伊那佐地区まち協

10月2日、伊那佐『灯』Mate2022を、八咫鳥神社で実施しました。2017年にスタートして今年で6年目となります。住民間のつながりが希薄になる中、地域内の交流と活性化を目的に、日本の伝統行事の灯籠(精霊)流しをヒントに大人から子どもまで楽しめる「伊那佐のまつり」として実施してきました。



▲小学生が描いた行燈

野川での灯籠流しが困難となり、今回も八咫鳥神社で実施をしました。境内には竹の行燈が並べられ、夕暮れの参道や境内をたくさん灯りがやさしく照らしていました。

また、拝殿には榛原西小学校の生徒の描いた絵や願いが行燈に浮かび上がり、彩を与えてくれました。家族や友人と訪れた方たちは拝殿で手を合わせたり、境内でバンド演奏している女性グループの歌を聴きながら楽しんでいました。

演奏が終わる頃には、境内も夕闇に包まれました。地域の方たちが見守る中、鳥居の先に見える伊那佐山をバックに大きな打ち上げ花火がいくつも上がり、秋の夜空に大きな光の花を咲かせました。

来年は道路工事も完了し、芳野川で地元の方たちと灯籠流しが再開できることを楽しみにしています。

2 晴天の秋空の下 大王地区スポーツ祭を開催

大王地区まち協



▲モルックをしている様子

10月2日、さわやかな秋空の下で「スポーツ祭」を当まち協と大王地区スポーツ協会の共催で開催しました。榛原西小学校のグラウンドには小学生から90歳代の方まで60余名の参加者が集合し、グラウンドゴルフ、モルック、ホールインワンゲームをグループに分かれて行いました。

今回は、フィンランドのキョツカというゲームを基に考案された「モルック」も実施しました。モルックという木の棒を投げて数字の書かれた木のピンを倒して得点を競うゲームです。当まち協では昨年度に地域住民の健康増進と交流を目的にモルック

3 菟田野魅力発見体験ツアー

菟田野まち協

10月8日、今回で6回目の開催となった農業体験を開催しました。昨年同様、コロナ禍の影響で午後からのスタート。

参加いただいた方は、県内外から12組33人、昨年も体験いただいたご家族、初体験の方、年齢も3歳から65歳までの幅広い方々です。

参加の方からは、「自然いっぱい鳥や虫の声も聞こえて癒されました」、「自然が素晴らしい昔の状態を維持している」など印象をいただきました。

新しいゲームなので役員の方がグループごとに丁寧にルールを説明してから競技をスタート。グループで得点を50点にピッタリと合わせないといけないので、計算しながら目的のピンを倒す必要があります。「頭の体操と運動神経の維持にも良い」と話す方もいました。

たくさん用意をした賞品は、グラウンドゴルフの得点を基に参加者へ渡されました。2回賞をもらえる方もいて、名前が呼ばれると会場が盛り上がり上がっていました。

空き家セミナーと相談会

【日時】 11月19日(土)

○セミナー 午後1時～2時
○相談会(前日までに要予約) 午後2時15分～4時15分

【場所】 市役所4階 大会議室

【主催】 宇陀市・NPO法人 空き家
コンシェルジュ

※相談会の日以外は、常設の相談員が相談を受けています。お気軽にご連絡ください。

【連絡先・受付時間】

NPO法人 空き家コンシェルジュ
☎/FAX: 0744・45・5210
月～土曜日 午前9時～午後5時



▲全員で稲刈り体験中

当日行程は、「さつまいも掘り」黒豆収穫、稲刈り体験、終わりの会」となっており、各体験では担当スタッフからのさつまいもや黒豆の起源や栽培の説明を聞いてから体験をしていただきました。

枝豆を抜く作業、さやをはさみで切る作業を体験し、「黒豆の収穫の大変さを実

感」との声があちこちから聞こえてきました。

続いてお待ちかねの稲刈り体験です。前日の大雨で田んぼがぬかるんでおり、コンバインでの刈り取りは叶いませんでしたが、鎌で稲を刈り、はざ掛け体験を熱心におられました。

参加いただいた保護者からは「子どもに食の大切さ、ありがたさを知ってもらうためにも、こういうイベントは大切」また、「知らないことを知れておもしろかったです。農家の方の大変さが少しわかり、もっと大切にお米をいただくと思えました」など嬉しい言葉をいただきました。

来年も皆さんの笑顔に会えることを楽しみに活動をしていきます。



▲宇陀の自然最高!!!

薬草

ジャノヒゲ

花壇や庭の区切りによく使われているジャノヒゲは、その葉の形からリュウノヒゲやタツノヒゲなどとも言われています。この細くて多数ある葉の間から、花茎が現れ、初夏に紫色の花をつけ、後に青藍色から緑黒色の美しい果実をつけます。

このジャノヒゲを注意して抜いてみると、根の先端が紡錘形に膨らんでいるのが見られます。この膨らんだ部分を集めて乾燥したのが「麦門冬」で鎮咳、去痰、滋養、強壮剤となります。特に、気管支が炎症を起こしているときには、なくてはならない生薬です。

この麦門冬を1日10～20g煎じて服用す

ば風邪、ぜんそく、百日咳、気管支炎、心臓病、リウマチなどにも効果があります。

この植物も「神農本草経」(217年)の時代から効果のある生薬として記載されている由緒ある生薬です。根を掘り採って土を払い、根の膨大部を集め、水洗いして乾燥する。これを半日ほど水に漬け、柔らかくなったところで中心部の芯を抜き、天日乾燥して良品の麦門冬に仕上げます。

鉢植えでも肥料さえあれば塊根をたくさんつけるので、庭の隅や鉢植えにしておき、時々食べて老化防止を図ってください。



薬草逍遙(やくそうしょうよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

※当市で「薬草活用講演会」をしていたいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075